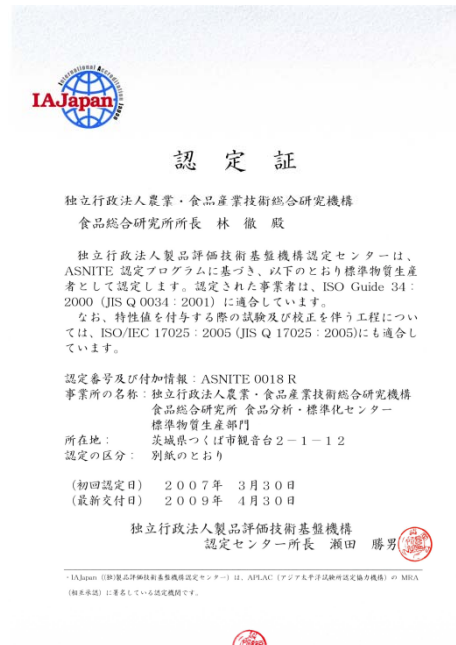


GM食品の認証標準物質の生産・頒布 —標準分析法の内部(品)質管理のために—

技術の特徴

- ・遺伝子組換え(GM)食品の表示制度の実効性を確保するため、食品総合研究所等のグループにおいて、遺伝子組換え農産物の定性・定量分析法の開発、試験室間共同試験による分析法の妥当性確認を行っています。
- ・ここで妥当性確認された6種類の定量分析法は、わが国の「標準分析法」になると共に、ISO21570のAnnexに収載され国際的にも認知されています。
- ・標準分析法による分析においても、分析結果の信頼性確保のためには、内部(品)質管理が必要ですが、そのためには分析種の認証値が決められている**認証標準物質**を利用することが望めます。
- ・食品総合研究所は、GMダイズとGMTウモロコシの**標準物質**生産についてISOガイド34(標準物質生産者の能力に関する一般要求事項)に基づく認定を取得しました。また、ISO/IEC17025に基づく校正事業者としての認定も受けています。



現在頒布中の**認証標準物質**の内容

- ・GMダイズであるRoundup Ready Soybean(RRS)を含まないものと、異なる2種類の濃度で含むものの計3種類で、各1本、計3本を1セットとして、21,000円(消費税込み、送料別)にて頒布中です。それぞれ粉末1gが褐色ガラスビンに密封されています。
- ・現在頒布中の**認証標準物質**は、日本の標準分析法による5試験室の共同試験により値付けされ、認証値はRRS濃度として、0, 0.069 ± 0.010, 0.133 ± 0.009 %です。



今後の展開

- ・本年度中に**GMダイズRRS含有(含有率0 %, 0.1 %, 4 %のセット)**を頒布開始。
- ・来年度は**GMTウモロコシMON810含有(含有率0 %, 0.5 %, 4 %のセット)**を頒布予定。
- ・新規に開発した分析法の妥当性確認のための試験室間共同試験に用いるブラインド試料も生産します。

参 考

- ・遺伝子組換え食品検査・分析マニュアル(改訂第2版)独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
- ・組換えDNA技術応用食品の検査方法について(平成13年3月27日 厚生労働省 食発第119号)
- ・遺伝子組換え食品に関する品質表示基準(平成12年3月31日 農林水産省告示第517号)
- ・遺伝子組換え食品に関する表示について(厚生労働省 食企発第3号、食監発第47号)



農研機構
食品総合研究所

代表研究者: 橘田 和美

所 属: 食品分析研究領域

GMO検知解析ユニット

問合わせ先: 029-838-7369 kaz@affrc.go.jp